

「歴史街道」の新たな挑戦。 グローバル人材の育成をめざす「日本文化体感プログラム」

設立以来20年にわたり、歴史文化を現場で体験してもらうことで日本文化の本質を国内外に伝える活動を続けてきた歴史街道推進協議会(会長：山口昌紀・関経連副会長)(以下、協議会)。協議会では、このほど、歴史街道の理念を具体化した「日本文化体感プログラム」を開発。歴史文化の根底に流れる日本人の精神性を学び、日本の強みである「文化力」を理解することで、真のグローバル人材の育成をめざす取り組みとして注目されている。

関西の歴史文化資源を生かす

関西は、国宝の約6割、重要文化財の約5割が集積する、日本の「歴史文化の宝庫」である。それぞれの資源には日本文化の本質が脈々と受け継がれている。

これを国の内外に発信すべく、パナソニック創業者の松下幸之助氏を座長とする「世界を考える京都座会」では、日本の文化と歴史を体感し実感する旅筋「歴史街道」を開発整備することを1988年に提言した。その後、文化人、経済人29名による「歴史街道構想推進呼びかけ人会」の発足を経て、1991年、関経連をはじめとする関西の経済界、国、自治体、企業、関係団体など官民の幅広い賛同を得て設立されたのが「歴史街道推進協議会」である。

〈図1 歴史街道ルートマップ〉



歴史街道では、5つの時代別ゾーンを結ぶメインルート(伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸)と、地域の特徴を生かした3つのネットワークを設定(図1)。そこにある豊かな歴史文化資源を活用し、日本文化の発信、魅力ある地域づくりなどさまざまな事業を展開している。

「日本文化体感プログラム」とは

1. 開発の背景

世界のポードレス化が進む現代では、日本企業もグローバル化の渦中にある。しかしながら、自国の歴史文化を語れない日本のビジネスパーソンや、日本の文化・こころを理解する機会がない外国人が多く存在しているのが実情である。「自国の歴史文化を知ること、そして相手国の歴史文化を理解することはグローバルコミュニケーションの前提」であり、企業が競争に勝ち抜き成長を持続するためには、多様な価値観を受け入れ、世界を舞台に活躍できる優れたリーダーの育成が急務である。

そこで、協議会では、日本人の膨大な経験と知識が詰まったわが国の歴史をたどり、日本の文化をあらためて認識することができるプログラムの開発を進めることとした。

2. プログラムのねらい

①日本から海外へ

世界を舞台に活躍する日本のビジネスパーソンには、世界に誇り、憧れをもって見つめられる日本の良さをあらためて認識してもらうことで、世界で活躍できる人材の育成をめざす。

②海外から日本へ

海外からの研修生には、日本の歴史文化的背景への理解を深め、自国の産業育成にどう適用できるかを考えてもらうことで、研修成果の向上につなげていくことをねらう。

3. プログラムの特長

世界に伝える『日本らしさ』を「座学」で学び、さらに「現地」で体験することで、日本の歴史文化が確実に体感できる。

20年におよぶ「歴史街道」計画の活動をベースに、現地情報の収集力・調整力や寺社・自治体・ボランティアガイドとのネットワークを生かし、単なる観光ではない、企業や研修機関における研修テーマの理解につながる日本文化が体感できる(図2)。

4. ビジネス研修等の取り組み例

①外国人向け訪日研修

(公財)太平洋人材交流センターは、国際協力機構等の委託を受け、開発途上国の行政官や企業経営者を対象にした産業や観光振興、金融支援策などについての訪日研修を実施しており、毎年300名ほどの研修員が参加している。その中から、2010年度は4回、計20カ国の研修

員を対象に試行的に本プログラムを実施した。受講者のアンケートには、「日本の文化を学ぶことは日本の企業についての理解を深める一番の方法」「日本文化を知ることはすべての基礎となる」との声が多数寄せられ、研修テーマとの関連性においても非常に有効であると評価された。その評価と検証をふまえ、2011年度からは本格導入を開始、9研修約120名、40カ国を超える研修員がプログラムを受講する予定である。

②国内企業の社員研修

当会会員企業の鉄道会社では、2011年度の新入社員研修の一環として本プログラムを導入した。

鉄道事業者は沿線の歴史や文化に関する知識を深めることが、お客さまへのサービス提供の上で必要不可欠である。そのため、本プログラムの「座学」と「現地」の組み合わせは立体的に文化を理解できる点や日本人の精神性が日本の技術革新

につながっていることを認識できる良さがあったと評価されている。

プログラムの意義

日本は西洋諸国からの脅威にさらされ開国し、その後、欧米の技術や文明を全国民で吸収し、その学びを改良して自分たちの文化(商品や戦略)へと昇華させてきた。「歴史街道」づくりの提言をまとめた堺屋太一氏は、このプログラムの意義について、「日本は2回のみじめな敗戦を経験したがその都度、見事に立ち直り、それ以前よりもはるかに豊かで世界で尊敬される国になった。東日本大震災という第3の敗戦にわが国は再び立ち向かわねばならない」と語っている。

また、プログラム開発に携わった協議会の松枝健夫企画調整部長は、「今回の大震災で『日本人の不屈と和の心』があらためて確認されたこ

とは、世界も認めるところである。歴史的に見ても日本的伝統、日本の精神文化・国民性は、どの時代にも変わらず貫かれてきた。

世界に学び、引き継がれた知恵や技を大切にしつつ、それを『日本らしさ』に変容させる日本人は、洗練された文化力と技術イノベーションをかけ合わせ、新生や再生の突破力を生み出していくことができる。この『日本のDNA』は今も変わらない。

『日本文化体感プログラム』は、日本人の誇りと自信を取り戻す取り組み。また、各国の訪日研修員には、日本人の技と心の理解を通じて、日本の評価を変えるだけのインパクトを作りだすことができる」とプログラムの意義を強調する。

プログラムの活用を寄せる期待

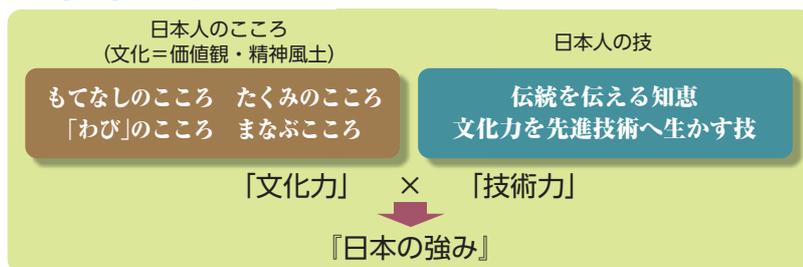
当会は、「歴史文化と共に生きる・関西」を関西が誇るブランドの柱と定義し、その情報発信に取り組んでおり、「関西ブランド」そのものである「歴史街道」の認知度向上がこの柱の強化において必須であると考えている。本プログラムについても、日本人および訪日外国人に向け、関西にある本物の歴史文化を立体的に発信することで、真の「日本」の認知度向上につながると考え、当会が主催する歴史街道視察会や近畿経済産業局と共催する在関西領事館フォーラムツアーなどにプログラムを活用している。

会員企業・団体においても、関西の強みを生かしグローバル競争力を高める取り組みとして、ぜひ研修プログラム等に活用されるよう働きかけていきたい。

(地域連携部 藤本芳崇)

〈図2 日本文化体感プログラムの構成～日本人の「こころ」と「技」～〉

●座学で学ぶこと



●現地で学ぶこと

日本人が大切に伝えてきた価値観・精神風土・技術を現場で体感

代表コース例：

「日本文化の変遷体感コース ～奈良から宇治へ～」

大陸文化の影響を受けた奈良では「大きさ」「力強さ」にふれ、宇治では「緻密さ」「やさしさ」にふれることで、日本独自の文化が醸成されたことを体感。

【モデルコース】

大阪(集合)⇒東大寺(奈良公園～東大寺南大門～東大寺大仏殿)⇒宇治平等院⇒市営茶室⇒宇治上神社⇒源氏物語ミュージアム⇒大阪(解散)



座学の知識をふまえ、現地で体感し、歴史文化を確実に体得する

歴史街道推進協議会

☆お問合わせ先

TEL: 06-6223-7744

E-mail: r-kaido@rekishikaido.gr.jp

☆ホームページ

http://www.rekishikaido.gr.jp/

※上記のほか、「日本人の精神文化に触れるコース～斑鳩から伊勢へ～」「日本独自の文化に触れるコース～京都東山から金閣寺へ～」「日本文化の体感コース～平城宮跡から東大寺へ～」「日本人の宗教観を観るコース～東大寺から春日大社へ～」の5つの推奨コースがあり、これらをベースに研修コースに応じてオーダーメイド。